

健

康

徳大病院

元気を
支える
医療

高木康志
脳神経外科教授・
診療科長

で抜き出す血栓回収療法の進歩が著しく、後遺症があった重症脳梗塞の予後の改善につなげています。

私は若年者の脳卒中の原因となる脳動静脈奇形や、もともと病の外科治療を専門にしています。脳動静脈奇形は10代や20代で脳出血を起こす疾患です。脳出血は致死率が高いために、出血で脳が損傷し、まひや失語などの大きな後遺症が残ります。症状が軽い場合でも再出血しやすく、手

徳大病院脳神経外科は院内に脳卒中センターを設けており、県内の脳卒中治療の中心として機能しています。特に、脳血管内の血栓をカテーテル

万全の体制で高度な手術

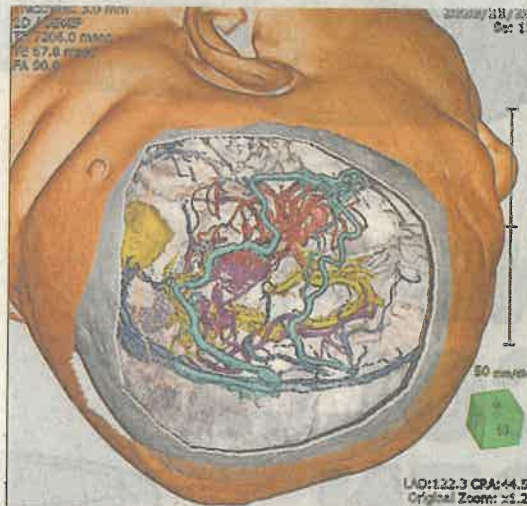
術する必要があります。

手術は出血に伴う合併症のリスクが高く、非常に難しいと言われていました。徳大病院は最新のハイブリッド手術室を備え、手術中に脳血管撮影という血管の検査ができます。これにより、脳動静脈奇形が完全に摘出できたかリアルタイムで確認することが可能です。最新の手術顕微鏡に装備され、血管内に蛍光色素を投入するインドシアニングリーン蛍光血管撮影を用いて脳表面の血流を詳しく観察することもできます。

手術前には手術シミュレーションモデルを作成し、出血しやすい部分の

手術前には手術シミュレーションモデルを作成し、出血しやすい部分の

手術前には手術シミュレーションモデルを作成し、出血しやすい部分の



【上】インドシアニンググリーン蛍光血管撮影で見た脳の血管。血流が詳しく分かる
【下】手術シミュレーションモデルの画像。脳内の様子を確認した上で手術する

脳血管障害治療で実績

詳しい状況を3Dで確認しています。万全な体制で最新の治療法に慣れたチームが手術を行っており、国内で有数の治療成績があります。

もともと病は厚生労働省の定める難病の一つであり、小児期は脳梗塞で多く発症し、成人になると脳梗塞と脳出血で発症します。頭皮の血管を脳表面の血管につなぐバイパス手術で治療しますが、血管が細い上にもろく、非常に難易度が高いです。

私はこのバイパス手術において国内有数のエキスパートで、豊富な手術経験があり、厚労省の難治性疾患研究事業のメンバーでもあります。手術用顕微鏡を使って1ミリの満たない血管をつなぎます。バイパスが通って機能しているかは、インドシアニンググリーン蛍光血管撮影で確認します。

徳大病院では脳血管障害のほかに脳腫瘍やてんかん、パーキンソン病などの最新手術も、それぞれのエキスパートが力を合わせて行っています。お困りのことがあればご相談ください。